



名前

日付

月

日

答え合わせのポイント・・・自分に厳しく行おう😊

①答え合わせは色ペンで行うこと ②間違いはその場で訂正すること ③点数の記入は不要

例文中の傍線部を和訳しなさい

▼例文

- 1 101-1 花びらの端に美しい色がこころもとなくついているようだ。
- 2 101-2 久しく連絡がないので、約束はどうなったのかとこころもとなし。
- 3 101-3 早く都に帰れる日がこころもとなく、日数を数えている。
- 4 102-1 喧嘩をしたきり夫の通いがない。あっけないよのなかだと思う。
- 5 102-2 よのなかのことは、摂政父子の思うがままであった。
- 6 103-1 幼少の頃から宮中でお育ちなので、自由がなくところせし。
- 7 103-2 わざわざ見舞いに行くのもところせし。ついでのとに見舞おう。
- 8 103-3 大臣のところせき姿をひと目見ようと、家々の人々が出てきて見る。
- 9 104-1 子どもの将来を確かに見守ることをちぎり、手元に引き取った。
- 10 104-2 男も女もまだ若かったけれど、ちぎる心を結び交わした。
- 11 104-3 あなたの自殺を私が救ったのも前世のちぎりでしょう。
- 12 105-1 この木で観音仏を作ろうと考えたが、持ち帰るたよりがない。
- 13 105-2 大将の突然の来訪に、大臣は「どこへ行くたよりか」と尋ねた。
- 14 105-3 子供のことをたよりの人に頼んで、女は遠くへ旅立った。
- 15 106-1 男はますます女をあはれに思い、熱心に通い続けた。
- 16 106-2 雨に向かって見えない月を恋しく思うのも、またあはれなり。
- 17 106-3 恋人を亡くして以来、見るものすべてがあはれなり。
- 18 107-1 口にするのもゆゆしき神の護りのお陰で、長生きができた。
- 19 107-2 従者を与えられるくらいの身分の貴族はゆゆしと見える。
- 20 108-1 若宮のお誕生を、父君も母君もいみじく喜びなされた。
- 21 108-2 世間の人々は、彼をいみじき孝行者とほめ讃えた。
- 22 108-3 夫に捨てられた女を見て、人々は「いみじ」と涙ぐむ。
- 23 109-1 この女は気が強く、意地の悪いところのものする人であった。
- 24 109-2 天皇は病重く、お食事もわずかしものしなさない。
- 25 109-3 女房たちは牛車に乗って、祭り見物にものす。

▼現代語訳

- 1 はっきりしない(かすかに)
- 2 不安だ・気がかりだ
- 3 待ち遠しく
- 4 男女の仲・夫婦の仲
- 5 政治
- 6 窮屈だ
- 7 大げさだ・仰々しい
- 8 威厳がある
- 9 約束し
- 10 親しい仲・(男女の)深い仲
- 11 宿命
- 12 手段
- 13 ついで・機会
- 14 縁故
- 15 愛しく
- 16 趣深い
- 17 悲しい・おなしい
- 18 畏れ多い
- 19 たいへんすばらしい
- 20 たいへん
- 21 たいへんすばらしい
- 22 たいへん気の毒だ
- 23 ある
- 24 食べる・口にする
- 25 行く

26 110-1 別れた恋人を一目ゆかしくて、垣根越しに覗いてみる。

27 110-2 鶯の鳴く声をゆかしと、梅の咲くのを心待ちにしている。

28 111-1 父の教えにたがふとしても、自分の心のままに生きてみたい。

29 111-2 こちらの舟とあちらの舟が湖の上でたがひて行く。

30 112-1 寺の前をわたるときに、僧の読経の声が聞こえてきた。

31 112-2 中宮が天皇の部屋にわたりなさるので、女房がお供をする。

32 113-1 雷が落ちてきそうでみなこわく、さかしき人はひとりもない。

33 113-2 さかしき人の占いでも娘を養女に出すべきだということで決心する。

34 113-3 愚かな者が本当に賢い人に物を教えたりするのはさかしきことだ。

35 114-1 人目を忍ぶ恋なので暗いうちに帰ろうと思うが、え帰らず。

36 114-2 日々の寂しさを口にすることもあへぬほど短い訪問だった。

37 114-3 流れる涙を互いにとめかねつつ、右に左に分かれて旅立つ。

38 115 二人の仲を裂こうとしても、分けることのかたき心である。

39 116-1 男は下仕えの女と結婚しようとしたが、親はさらに許さず。

40 116-2 笑顔が美しく、悩みを抱えているようにはよも見えず。

41 116-3 成人したら結婚しようと約束したことをゆめ忘るなよ。

42 117-1 世をそむき山林に入ったが、まだ恋人に心を残していてつらい。

43 117-2 あなたが世をかるとは、あまりに突然で悲しくてならない。

44 117-3 不義密通を犯した罪悪感に耐えかねて、みぐしおろしなさる。

45 118 いはけなきころから頭がよく、学問に熱心な人であった。

46 119-1 その姫君は化粧はうるさしと言って、まったくなさない。

47 119-2 日が暮れても客人が長居をして帰ろうとしないのはむつかし。

48 120-1 どんなものでも形の小さいものはすべてうつくし。

49 120-2 妻に追い出される若い女を、男はらうたしと思う。

50 121-1 姫君のご結婚のいそぎ、父君はさまざまに心遣いをなさる。

51 121-2 帝が石山寺へ参詣なさるので、沿道に花を植え仮屋をまうく。

52 122-1 決まりの悪さにうつむいたまま、去るに去れずずちなし。

53 122-2 去っていく恋人を見送りながら、せむかたなく泣き崩れる。

54 122-3 女の暮らしぶりは、前にも増していふかひなく貧しい様子だ。

55 123 夜の人の声は小さな囁きでもかしがましく聞こえる。

56 124 大勢の見物人で混み合っていて、みならうがはしく叫び合う。

57 125-1 さかしらする親が、息子の結婚に反対して女を外へ追い出す。

58 125-2 さかしだつ人は、自分の失敗は棚にあげて人に説教をする。

26 見たくて

27 聞きたい

28 違う(背く・逆らう)

29 すれ違う・行き違う

30 通り過ぎる

31 行く

32 しっかりしている・気丈夫な

33 賢い

34 利口ぶる

35 帰ることが出来ない

36 できない

37 止めることができない

38 できない

39 絶対にゆるさない

40 まったく見えない

41 けっして忘れてはいけません

42 出家をして

43 出家する

44 出家する

45 幼い

46 煩わしい

47 不愉快だ

48 かわいい

49 かわいい

50 準備

51 準備する

52 どうしようもない

53 どうしようもなく

54 どうしようもなく・言いようもないほど

55 やかましく

56 やかましく

57 利口ぶる・出しゃばりな

58 利口ぶる・偉そうにしている